

7. オープンラインダイビング

7.1 はじめに

このプログラムは、スノーケラー、フリーダイバー、中級、上級、またはスペシャリティーフリーダイバーエリアでPFIまたは同等の認定フリーダイバーにオープンラインダイビングを提供し、プールまたは深度分野での監視付きバディダイビングセッションの機会を提供するように設計されています。これらのセッションは、訓練を受けたPFIプロフェッショナルの監督下で、カウンターバランスまたは同様のFRSを含むダイビングサポートシステムを提供します。

7.2 コース目的/目標

これらのオープンラインダイビングセッションの目的は、仲間と一緒にダイビングやスキルを練習できるトレーニング環境を個人に提供することです。フリーダイバーは、適切な安全プロトコルが実施されていることが認定されている最大深度に制限されています。その特定の専門分野またはその主要な認定の制限によって管理されるスペシャリティーフリーダイバーエリア。

7.3 プログラムの前提条件

1. 18歳以上(保護者の同意がある場合は10歳以上)
2. PFIスノーケラー、PFIフリーダイバー、PFIインターミディエイトフリーダイバー、PFIアドバンストフリーダイバー、または定義されている場合は同等のスキルレベルとして認定されています。
3. 「オープンラインダイビング」の場合、認定されたフリーダイバーは、過去12ヶ月以内に認定コース、リフレッシュコース、コーチングセッションを終了し、その経験をPFIプロフェッショナルが満足するように証明する必要があります。
4. 有資格フリーダイバーは、継続的にオープンウォーターセッションに参加し、PFIプロフェッショナルが満足するようなそのセッションの証明を提出できる場合、12ヶ月の制限を越えてオープンラインダイビングに参加することができます。
5. PFIプロフェッショナルは、いつでも、有資格フリーダイバーに対して、オープンラインダイビングに参加する前に、必要に応じてコーチングセッションやリフレッシュコースの受講を要求することができるものとします。

7.4 講習生に必要な器材

1. フリーダイビングに適している、マスク・フィン・スノーケル・ウェットスーツ・ウエイト・ベルト・フリーダイビングコンピューターまたは、時間の分かるデバイス・ラインカッター・ナイフ（その地域にあったもの）または、ストラップなどのトレーニングセッションによって、地域の環境によって必要と見なされる特殊な器材など。

7.5 サポート教材

講習生用教材

1. PFI免責同意書とリスク告知書
2. PFI 病歴書

監督用教材とシステム

1. PFIが承認したフリーダイバーサポート/引き上げシステム (FRS)
2. BLS／ファーストエイドサポート器材

7.6 修了者に与えられる資格

1. このオープンラインダイビングセッションが正常に完了後、フリーダイバーはこのセッションに対する認定を受けることはありません。
2. このオープンラインダイビングが正常に完了すると、修了者は、過去12か月以内にPFIフリーダイバースーパーバイザーとしてのフリーダイビング経験の証明を必要とする可能性があるコースを除き、PFIコースに登録するための事前資格を受け取ることはありません。
3. このオープンラインダイビングセッションが正常に完了すると、フリーダイバーは最近のダイビング経験の証拠として、フリーダイビングレコードカードへの署名を要求する場合があります。

7.7 指導できるインストラクター

このオープンラインダイビングセッションは、アクティブなステータスのPFIフリーダイバースーパーバイザーが実施できます。

7.8 インストラクター1名あたりの候補生数

クラスルーム／ブリーフィング

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、講習生数に制限は無い。

限定水域(コンファインドウォーター)

1. 1人のPFIフリーダイバースーパーバイザーに対して最大12人の候補生。(12:1)

オープンウォーター

1. 1人のPFIフリーダイバースーパーバイザーに対して最大6人の講習生。(6:1)

7.9 オープンラインダイビングの構成と期間

一般的な実行方法

1. コンファインドウォーターとオープンウォーターの最大深度の制限は、経験と参加者の資格に制限されます。
2. すべてのダイビングは、適切なバディ・セーフティ・ローテーションまたはチーム(バディAダイバー-バディBセーフティ)を使用すること。

構成

1. PFIでは、インストラクターは参加する講習生の数とスキルレベルに応じてセッションを構成することができます。

7.10 知識開発/ブリーフィング概要

トレーニングセッションでは、次のトピックについて説明する必要があります。インストラクターは、これらのトピックを分かりやすくするために追加のテキストまたはその他の教材を使用できます。

1. イントロダクション:
 - a. オープンラインダイビング概要
 - b. 事務処理と前提条件
 - c. 必要器材の要件のチェック
 - d. ボート/プールのプロトコルと行動
 - e. 水中でのプロトコルと行動
 - f. 安全・監視の徹底
2. オープンラインダイビングセッションの概要:
 - a. ようこそ
 - b. オープンラインダイビングセッションとは何か
 - i. あなたのスキルと能力を実践する機会
 - ii. サポートリグを用意
 - iii. コーチングではなくトレーニング-直接監督するインストラクターはいません。
 - iv. 認定レベルを超えてさらに深く潜るための手段ではありません。

- c. 責任
 - i. トレーニングレベルで概説されているように、安全で責任ある方法で行動してください。
 - ii. 状況や事故によって必要な場合は、レベルに応じてバックアップの安全性を提供します。
- 3. 事務処理と前提条件：
 - a. 参加者情報
 - b. 信頼性
 - c. 病歴診断書
 - d. 標準的安全なフリーダイビングの実践への理解の声明
 - e. 高度なフリーダイバーまたは特殊なフリーダイバープログラムまたは同等のプログラムを通じて、PFIスノーケラーとしての認定を確認します。
- 4. 必要器材の要件のチェック
 - a. 適切なマスク、フィン、スノーケル
 - b. 適切なローカルのダイビング環境にも適した保護スーツ
 - c. 適切なウエイトとウエイトベルト
 - d. 適切なフリーダイビングコンピューターまたは、時間を計るデバイス
 - e. 必要に応じて、ローカル環境に適したナイフまたはライン用カッティングデバイス。
 - f. 認証に必要な深さとレベルで必要な場合はネクストラップ
- 5. ボート/プールのプロトコルと行動
 - a. ボート/プール重要なエリア
 - b. 器材の装着、脱着と収納
 - c. エントリー&エキジット
 - d. ボート/プールスタッフとの水中コミュニケーション
 - e. ドリフト手順
- 6. 水中でのプロトコルと行動
 - a. サポートステーションとの間の水泳
 - b. リグのセットアップと故障
 - c. リグルール
 - d. フリーダイビングローテーション
- 7. 安全/監督慣行：
 - a. 直接監督プロトコル
 - b. 適切な浮力
 - i. 10m/33ft以浅の中性浮力
 - ii. 少なくとも、呼気の時、水面でポジティブ浮力
 - c. カウンターバランスとプレートの深さの調整

- d. 監督のためのラインローテーション:
 - i. 2人、交互に実行とセーフティの間の休憩
 - ii. 3人、交互に実行とセーフティの間
 - iii. 4人、バディチームのローテーション
 - iv. 5人、交互にセーフティ前の休憩
 - v. 6人、バディチームのローテーション
- e. LMC/ブラックアウト手順のレビュー
 - i. 水面LMCのプロトコル
 - ii. 水面ブラックアウトのプロトコル
 - iii. 深度でのベイルアウト
 - iv. 水中でのブラックアウトプロトコル
 - v. LMC/ブラックアウト後はフリーダイビング禁止
 - vi. BLSプロトコルと助けの呼び方

7.11 修了要件

オープンラインダイビングセッションを正常に完了するには、フリーダイバーは次のことを行う必要があります。

1. すべての知識/ブリーフィングセッションに参加し、限定水域またはオープンウォータートレーニングセッションに参加すること
2. 水中バディダイビングテクニックを習熟していることを示すこと
3. ダイブプランとその実行に関し適切な判断を行うことができます。

PFIフリーダイバースーパーバイザー以上の専門家メンバーは、次のことを行う必要があります。

1. すべての書類を7年以上ファイルに保管してください。